



## M.I 英語英文学科 3年次

参加期間： 2016年8月12日～9月12日（4週間）

受入校： Wodonga Senior Secondary College（Wodonga）

### I. 教育実習について

私が滞在した Wodonga という町は Melbourne から車で約 4 時間半の、ちょうど Melbourne と Sydney の中間地点にある小さな町でした。実習先の高校では、Year10 と Year11&12 の 2 クラスを担当しました。Year10 は 10 人ほど、Year11&12 はそれぞれ 1 人ずつの 2 人だけというように比較的小さなクラスだったので、生徒たちとの距離は縮めやすかったです。Year10 の授業ではウォーミングアップとしてチーム対抗で単語ゲームをしたり、天気や季節などの身近なトピックについてプリントを使って学んでいました。個人差はありましたが、全体的なレベルとしてはひらがな・カタカナ・簡単な漢字を書くことができ、簡単な質問や日常会話が聞き取れるというレベルでした。授業以外では毎週木曜日のランチタイムに教室を開放し、ランチを食べながら授業の時にはできない雑談やゲームを自由にする時間がありました。そこで生徒と写真を見せ合ったり、折り紙をしたり、“ひらがな UNO” をしたりして仲良くなることができました。Year11&12 は 2 人がそれぞれ違うタスクに取り組んでいて、それをアシストするといった形でした。Year12 の生徒は 15 分間日本語での質疑応答をするといった大きなテストが控えていたので、質問リストを見ながら一緒に日本語に訳して答えを考える作業と一緒に取り組みました。難しい質問も多く、授業時間外でも空きコマなどで一緒にこの課題に取り組むサポートしていました。さらにホストティーチャーがより多くの経験ができるようにと、近隣の小学校 1 校、中学校 1 校 2 キャンパスの日本語の授業のアシスタントとして参加できるように手配して下さりました。高校の授業はそれぞれのクラス週 3 コマだけだったので、その他の空いた時間は小学校と中学校の授業でアシスタントをさせてもらいました。“今日は午前中は高校で、午後は小学校” “今日は 1 時間目だけ中学校に行って、そのあとは高校で授業” といったように、毎朝行く学校や行く時間が違ったのでスケジュール管理には気を使っていました。小学校ではひらがなの練習をしたり「ふねでいきます」など簡単な文を勉強したりしていました。Foundation から Year6 までそれぞれ 1 クラス 25 人程度で、1 学年に 5 クラスほどの大きい小学校でした。クラスを半分に分け、1 グループが先生と黒板を使って勉強している間、もう 1 グループはひらがなカードや ipad のアプリを使いながら自分たちで学習するという授業形式が多





かったです。中学校は2つのキャンパスに行きました。中学校の授業では私の自己紹介を使って授業をさせていただきました。私が「わたしはきょうとにすんでいます」「いもうとが2人います」というような簡単な自己紹介をし、生徒たちがそれを聞き取りプリントの穴埋めをして、最終的には自分の自己紹介を日本語で作ってみようというものでした。小学校も中学校もそれぞれのテーブルに回って声をかけ手助けをしたり、前で見本を見せたりするのが私の主な仕事でした。小学生はとにかく元気だったり、中学生は teenager だからなのか少しシャイな生徒や中々まじめに取り組んでくれない生徒もいたりして、高校よりも大変な思いをしました。しかしどの学校もどの授業も楽しかったですし、小中高と幅広い年齢の日本語教育の現場を体験することができ自分の中で比較ができたのは、他ではできない本当に貴重な経験だったと思います。休み時間に staff room で授業の打ち合わせをしつつ談笑したり、お家に招待していただき家族も一緒にディナーを食べたり、ローカルラジオに出演する機会を作ってもらったり、滞在中とても良くしてくださったホストティーチャーには感謝の気持ちでいっぱいです。



小学生はとにかく元気だったり、中学生は teenager だからなのか少しシャイな生徒や中々まじめに取り組んでくれない生徒もいたりして、高校よりも大変な思いをしました。しかしどの学校もどの授業も楽しかったですし、小中高と幅広い年齢の日本語教育の現場を体験することができ自分の中で比較ができたのは、他ではできない本当に貴重な経験だったと思います。休み時間に staff room で授業の打ち合わせをしつつ談笑したり、お家に招待していただき家族も一緒にディナーを食べたり、ローカルラジオに出演する機会を作ってもらったり、滞在中とても良くしてくださったホストティーチャーには感謝の気持ちでいっぱいです。

## II. ホストファミリーについて



私は1か月間の滞在中に2週間ずつ、2つのホストファミリーにお世話になりました。前半は30代の夫婦の家庭で、犬が2匹いました。ホストマザーは実習先の高校のインドネシア語とマルチメディアの先生だったので、毎朝マザーと一緒に車で学校に行っていました。ファザーは料理が得意で、毎晩おしゃべりしておいしいご飯を作ってくれました。カンガルー肉なども食べさせてくれました！週末は湖や丘などオーストラリアらしい自然を感じられる場所やショッピングをしに連れて行ってくれました。平日は帰宅後犬の散歩などにも一緒にいきました。とても落ち着いて過ごせて心地良かったです。後半は8歳の女の子と14歳の男の子がいる4人家族の家庭にお世話になりました。こちらもホストマザーが高校の数学の先生でした。学校へは徒歩で15分弱かけて通いました。子供が2人いるのでとても賑やかで毎日楽しく過ごせました。学校から帰ってきたら家族みんなで映画やテレビを見ながら夕飯を食べ談笑をして、ベッドに行くまではリビングで過ごすのが日課でした。週末は主に男の子の所属するサッカーチームの試合を応援しに行きました。そしてなんと3週目の週末には、ホストマザーの弟さんの結婚式に出席するためにシドニーまで旅行に行きました。念願だったオペラハウスやハーバーブリッジの周辺を観光することができました。次の日は教会での挙式とホテルでのレセプションに同行させてもらい、オーストラリア式ウェディングを体験しました。本当に偶然タイミングがあって参加させていただいて、とても特別な思い出になりました。ホームステイの最終日には大好きなファミリーと離れるのがさみしすぎて沢山泣きました。「また来てね」「日本に行くね」と言っ

い自然を感じられる場所やショッピングをしに連れて行ってくれました。平日は帰宅後犬の散歩などにも一緒にいきました。とても落ち着いて過ごせて心地良かったです。後半は8歳の女の子と14歳の男の子がいる4人家族の家庭にお世話になりました。こちらもホストマザーが高校の数学の先生でした。学校へは徒歩で15分弱かけて通いました。子供が2人いるのでとても賑やかで毎日楽しく過ごせました。学校から帰ってきたら家族みんなで映画やテレビを見ながら夕飯を食べ談笑をして、ベッドに行くまではリビングで過ごすのが日課でした。週末は主に男の子の所属するサッカーチームの試合を応援しに行きました。そしてなんと3週目の週末には、ホストマザーの弟さんの結婚式に出席するためにシドニーまで旅行に行きました。念願だったオペラハウスやハーバーブリッジの周辺を観光することができました。次の日は教会での挙式とホテルでのレセプションに同行させてもらい、オーストラリア式ウェディングを体験しました。本当に偶然タイミングがあって参加させていただいて、とても特別な思い出になりました。ホームステイの最終日には大好きなファミリーと離れるのがさみしすぎて沢山泣きました。「また来てね」「日本に行くね」と言っ





て下さったのでまた会える日を今から楽しみにしています。帰国後もずっと連絡を取っています。

### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

帰国した今、このプログラムに参加して良かった！と心の底から思います。自信をもっておすすめできます。日本語教育に興味がある人、英語や海外の生活に興味がある人、そして自分を変えたい人は特に、思い切って飛び込んでみると変化が生まれると思います。私は日本語教師になろうと思って参加したわけではなかったのですが、海外で日本語や日本の文化を伝える日本語教師という仕事の難しさや素晴らしさを学ぶことができ、本当にいい経験になりました。何より日本語の授業を通して、外国人が自分の国に興味を持ってくれて、自分の国の言語を一生懸命勉強してくれることってこんなに嬉しいんだ！と感じました。3年生で就職活動を控えた今、将来について考える機会も多いですが、今後はこの経験で自分が感じたことを大切に進路を決めていきたいなと考えています。



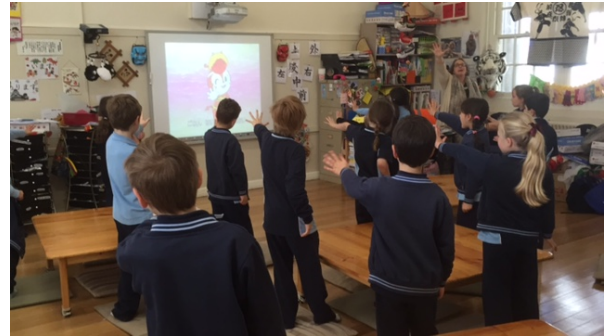
## M.T 英語英文学科 2年次

参加期間： 2016年8月12日～9月12日（4週間）

受入校： Gardenvale Primary School（Melbourne）

### I. 教育実習について

私は公立の小学校で prep-year6 までの全てのクラスでアシスタントとして参加させていただきました。楽しく日本語を学ぼうというのがコンセプトだったので、毎回授業の最初に日本語の歌を歌ったり、日本で流行っているダンスを先生と生徒と一緒に踊ったりしました。prep-year2 は折り紙で着物などの日本にまつわるものを作ったり、かるたを使って楽しみながらひらがなを覚えたりという授業を主にしていました。私は折り紙マスターと呼ばれていたの



で折り紙の時間は生徒たちに囲まれてとても楽しかったです。year3-year6 は具体的なトピックについて日本語で学んでいました。特に year6 は自分たちで日本語の天気予報を作成して発表するという授業をしていたので、発音練習や文法の確認をしたりしました。積極的な生徒たちばかりだったので、生徒自ら質問をしに来てくれたりもしてとても楽しかったです。また、授業とは別に、一部の生徒は日本語スピーチ大会が控えていたので、一週目の空き時間にはそのための練習ばかりしていました。その大会でわたしの生徒が表彰されたときは涙が出るほど嬉しかったです。



学校先生方もとても親切にしてくださいました。空き時間も手伝いに来て！と声をかけてくれる先生方がたくさんいて、いろいろな授業を見学することができました。日本と授業の様子がまったく異なっていたので、とても新鮮ですてきな経験ができました。生徒とも言葉は通じつとも、昼休みに追いかけっこをしたりしてとても仲良くなれました。最終日に生徒達からもらった寄せ書きは一生の宝物です。

### II. ホストファミリーについて

私のホストファミリーは4人家族で、5歳と3歳の女の子がいました。最初に苦労したのはやはり英語でした。お母さんはイギリス出身だったのでとても聞き取りやすかったのですが、オーストラリア出身のお父さんの英語のクセが強くて聞き取れるようになるまでとても時間がかかりました。しかし、ファミリーがとてもフレンドリーだったのですぐうちとけることができました。最初に行きたいところを全部教えてほしいと言われたのでリストを作成したのですが、4週間で全ての場所に連れて行って行ってくれました。また、平日も海で日が暮れるまで遊んだり、city まで出



て pub に行ったりと、とてもアウトドアな家族だったので、思う存分オーストラリアを満喫することができました。(写真は家の近くの浜辺にあった観光名所です。) たった4週間という期間でしたが、ファミリーと数え切れないほど思い出が増えて、お別れのときは涙がとまりませんでした。出国前はホストファミリーと仲良くなれるか心配していましたが、本当の家族のような存在になることができました。



### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私は TJFL に参加して本当によかったと思っています。たった4週間という短い期間で、貴重な経験をすることができ、大切な人がたくさんできました。また、私は将来教師になるかずっと悩んでいたのですか、TJFL を通して、やっぱり私は教師になりたいのだ、と自分の夢に自信を持つことができました。参加すれば必ずなにか得られるものがあります。迷っている方は是非参加してみてください。アドバイスは、英語の褒め言葉のレパートリーを増やしておくといいと思います。私は子どもが自信を持つことができれば、もっと日本語を好きになってくれるだろうと考え、とにかく褒めることを意識していました。また、手続きがとても難しいので、自分1人でやろうとせず、必ず誰かに確認を取ってから行った方がいいと思います。



S.S 日本語日本文学科 3年次

参加期間： 2016年8月12日～9月12日（4週間）

受入校： Parkdare Secondary College（MELBOURNE）

## I. 教育実習について

毎日1限目から5限目まで授業がつまっていた。放課後にも学校で子どもたちと日本語のスピーチコンテストの練習や、ノートを添削したりなどしました。もちろん家に帰ってからも教材作りをすることも多々ありました。授業中、教室の中を自由に歩き回って間違っている部分などを教えてまわりました。その際日本語は通じないので、ノートに例文を書いたりジェスチャーしたりすることが多かった。また、指摘する際には“おいしいよ”などと言葉を変えて教えていました。

教材を大きく四つ作成し、プレゼンテーションは二つ発表しました。その他にもリスニング試験問題と練習問題を作成したり、リスニング問題などの録音をしたりしました。

その内一つは渡航する前に用意していましたが、それ以外の教材はすべて学校で頼まれてから作りました。プレゼンテーションは、片方は易しい日本語を使って発表し、もう片方は英語で発表しました。

カタカナの教材としてポケモンカードと映画のポスターを印刷した用紙を持って行き、先生にみせ、アドバイスを頂きながら自分で7セットポケモンカードを作ったり、縮小をしてA3用紙に張り付けてタスクを作ったりしました。ポケモンカードを印刷したものは、その一部を使用して自分で一週間分の宿題を作成するのに使用しました。

教材作りの他にも、授業中に頼まれて、その場で見本となるものを作成したりすることも多々ありました。また、昼休みや放課後に日本へ留学する予定の子や受験生の会話の練習相手をしました。家へ帰ってからも、教材が多かったので三週間はほぼ毎日部屋に引きこもって夜中の12時まで起きて作成していました。

初めの一週間はどのクラスで何を教えているのかなど、そういった事を知るのに精いっぱいでした。さらに先生によって全く授業方法が違うのでその場その場で自分が何をすべきなのか判断しないとイケませんでした。そして、1、2週間は生徒に馴染めずとても悩みましたが、3週間目から挨拶してくれる生徒が増えてとても嬉しかったです。

教材作りや生徒に馴染めずとても辛い時もありましたが、自分が作った教材を使用してポケモンや、歌詞の授業を行ったあと生徒が「楽しかった。」「あの歌好き。」などと声をかけてくれたので、頑張ったかいがあったといつも最後に必ず思いました。

## II. ホストファミリーについて

私のホストファミリーはとても優しい方たちで、私が仕事で部屋に閉じこもっていると部屋まで話をしにきてくれました。また週末には必ずどこかへ連れて行ってくださったり、毎日昼食と晩御飯を作ってくださいました。私が話す拙い英語を嫌がらずにいつも笑顔で聞いてくれ



て、精神的にもとても助けられました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

1. 単語力…単語を出来るだけたくさん覚えてから行くことをお勧めします。私の場合、単語が分からないためききとれなかったり、ききとれても理解することが出来なかったりすることが多かったです。渡航する前にアプリをダウンロードしてリスニングを中心に勉強していましたが、オーストラリアへ着けばリスニングの練習はできたと今は思います。

2. 挨拶…現地の人は優しいので必ず返事を返してくれます。さらに英語が拙くても聞いてくださるので、自分から話しかけることをお勧めします。ですが、初対面の人には Hi! よりも Hello! を使いましょう。

3. 事前チェックは早めに…私の場合、事前に何を着用すべきか、どんな教材を用意すべきかメールをして返事が返ってきたのは1か月後でした。

4. 暖かい服/スリッパ/ティッシュ/ウェットティッシュ…オーストラリアではエアコンは夏だけ使用します。暖房はとても高いからです。日や場所によってはとても寒くなるので夜の暖房対策はしっかりするべきかと思います。スリッパはずっと靴を履いているのは疲れるので持って行きました。ティッシュはオーストラリアの紙類はキッチンペーパーのようなものなので硬かったのでとても重宝しました。ウェットティッシュもよく使います。

5. 特技…子どもたちと馴染むために必要です。私は特になくて最初大変でしたが、フォトアルバムや折り紙を見せることで会話することができました。また、もう一人違う大学のインターンシップ生の人がいいましたが、その人はサッカーができたのでとても子どもたちと仲良くなりました。

6. 事前準備…自分でなにか持っていく事をお勧めします。教材をつくるきっかけになるからです。たとえば、私は京都などの風景を撮影しそれを持って行きました。するとその写真を使用したプレゼンテーションをすることになったり、生徒みせてあげるととても喜んでくれて会話をするきっかけになったりしました。



## H.Y 英語英文学科 2年次

参加期間： 2016年8月12日～9月12日（4週間）

受入校： Ruskin Park Primary, Kalinda Primary School (Croydon)

### I. 教育実習について

月曜日～金曜日の9時から3時半まで小学校で実習しました。60分授業で1日3つか5つの授業がありました。0年生から6年生の授業に携わったのですが、クラスによって雰囲気も変わり、自分の小学生時代を思い出しました。生徒たちから学ぶことも多く、自分的に成長できた1か月になりました。授業が始まる時、生徒たちが「はるなさん、おはようございます」と日本語を使って挨拶してくれるのが、とてもかわいく、うれしかったです。4週間だったので1つのクラスは4回しか授業がなかったため全員の名前を覚えることはできませんでした。空いた時間に日本語授業以外の授業をみせてもらったりしたので、慕ってくれる生徒がいたりなど、すごく幸せな時間を過ごせました。すごくいい経験をすることができたので、行ってよかったな、とおもいます。

### II. ホストファミリーについて

私は、2つのホストファミリーにお世話になりました。1つ目の家族はベトナム人で毎日がベトナム料理で異文化を経験できてすごく楽しかったです。アジアということもあり、日本人と似ていて、とても過ごしやすかったです。2つ目の家族はオーストラリア人で毎日お肉を食べたりなど、オーストラリアっぽいな、と感じることが多くあり、すごくフレンドリーに接してくれて、すごく楽しかったです。またクリスマスに行くことを約束したので、行きたいです。すごく楽しい毎日を送ることができたので、この2つの家族でよかった、と心から思います。

### III. 参加希望者へのアドバイス

遊び、というかんじではなくインターンみたいな感じなので、すごく充実した日々を送ることができます。毎日が刺激的で、がんばらなくては、と思わせてくれる一か月を過ごせると思います。ホストファミリーも生徒の家族だったりするので、とても安心だと思います。こんな授業をしたいな、と考えてから行くことが望ましいと思います。